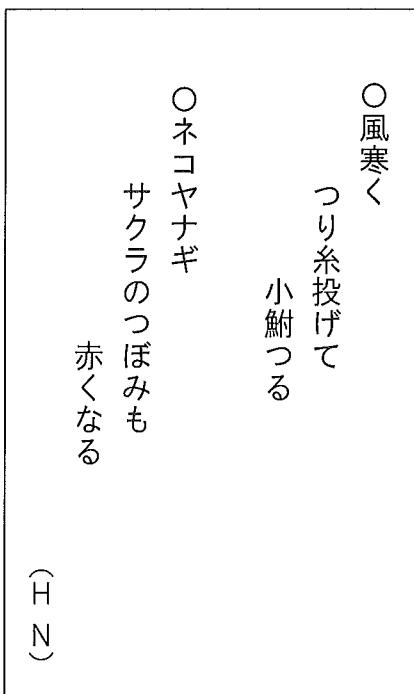


旅立ち

社会福祉法人しらとり会
利用者通信（N.O. 47）
平成31（2019）年3月1日発行

今月は、7名の方からの投稿です。



同志社大学物語 — established 1875 — (vol. 9)

また共通一次に失敗し、H君は、北海道大学を受けるが、僕は、京都大学文学部を受けることにした。河合塾の判定は、シビアなものだった。そこで、2月の始めに同志社大学の文学部と商学部を受け、2月の後半に高円寺に住んでいるS. H.君家に泊まり、早稲田大学の一文と商学部と教育学部を受け、3月に京都大学文学部を受けることとなった。その結果、同志社大学の商学部に行くことになった。

(Y Y)

落語・相の手都々逸・建て物

- 「目覚まし時計の音が大きい、と言う人の為に造りました」。
(何ですか?)
「ベルうるさいよ富殿」。
- 「会社を毎日早退すると口う人の為に造りました」。
「いつも大社」。

(岡本
祐子)



「今切れる人間が多いのは」

白砂糖の取りすぎが多いのと牛乳を飲んでいるからです。まずは白砂糖は骨を溶かすから頭が判断できなくなる。
牛乳は牛の血からできたのですが、もしネズミの血を飲む気になりますか？
だから今の人間は良いか悪いかの判断ができる人が多いのです。昔の人間は白砂糖を取る人はあまりいなかったから事件が少なかったのです。

(前山繁博)

○患者はどこまで馬鹿であろうか。

○中央を見れば自分が偉くないのが分かるから自分が暮らしている地域だけみて、自分は偉いんだと自分に言い聞かせ心の闇を落ち着かせている。
○オールマイティに学問の出来る医者なら東大の医学部に合格しているはずだが、試験科目がそこそこしか出来ない基礎の出来ていない医者に医療を任せていしたものか。

○偉い人間は生きれない日本。

(加藤忠男)

【投稿の募集】

利用者の皆様からの投稿をお待ちしています。

次回の締切は、3月15日(金)です。

『旅立ち』編集委員：加藤、本川、A.-Z.、H.A.